

火災想定訓練

火災想定訓練では、関西テレビ放送からの出火を想定とし、片平一日消防署長にも参加していただきました。
はしご車による要救助者の救出、消火隊員による放水、救助隊員の緊急脱出など、たくさんの来場者の皆さまが見守るなか、力強い訓練を実施しました。



消防体験コーナー

消防体験コーナーでは、水消火器の初期消火体験、訓練人形を用いた胸骨圧迫体験、起震車による地震体験、防災体験シアター等で防火・防災について学んでいただきました。



さいごに

防火の輪
継いでいこうや
わたしらで

(令和7年度 大阪市防火標語)



暖かい日差しのなか実施された、春の火災予防運動オープニングイベントには、子どもから大人まで幅広い世代の方にご来場いただき、終始笑顔の絶えないイベントとなりました。

ステージイベントや体験コーナーなどで、来場された皆さまに火災予防についての認識を高めていただくことができたと感じています。

今後も火災予防への意識が高まるようなイベントを実施し、令和7年度 大阪市防火標語にもあるように、市民の皆さまが安心して暮らせるよう、火災予防に取り組んでまいります。



春の



火災予防運動
オープニング
イベント

3月1日から7日まで、全国一斉に「春の火災予防運動」が実施されました。
大阪市消防局では、扇町公園において、春の火災予防運動オープニングイベントを実施しました。
ステージイベントや火災想定訓練、消防体験コーナーなど、ご来場の皆さまに火災予防の重要性についてお伝えした当日の様子をご紹介します。

ステージイベント

当日は、気象予報士の片平 敦 様を一日消防署長に任命させていただきました。
一日消防署長任命式後は、予防課（調査鑑識）による、「暮らしの中に潜む火災実験講座」で軽快なトークと火災予防に関するダジャレなどを披露していただきました。
火災再現実験にもご協力いただき、ご来場者の皆さまに向けた楽しく、わかりやすい火災予防の普及啓発活動に取り組んでいただきました。





5月31日は「世界禁煙デー」

5月31日～6月6日は、WHO(世界保健機構)が定める「禁煙週間」です。

2026年のテーマは、「魅力の正体を暴く-ニコチンとたばこ依存症への対策」で、将来の世代を、たばこニコチン製品の害から守ることを呼びかけています。

新型タバコも、依存性と健康リスクがあります！

近年、新型タバコ(加熱式タバコ・電子タバコ等)がクリーンなイメージで登場しましたが、タバコであることには変わりありません。

依存性の強いニコチン、発がん性物質を含むタール、細胞を破壊し心臓に負担をかける一酸化炭素は、従来型の紙巻きタバコと同程度のリスクが潜んでいます。また、受動喫煙の原因にもなります。

紙巻きタバコのニコチン・タール量は「たばこ事業法」で表示義務がありますが、新型タバコには、表示義務がありません。

サードハンド・スモークに要注意！

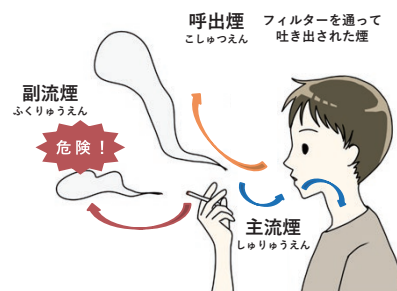
副流煙・呼出煙による受動喫煙(二次喫煙)はよく知られています。最近はそのに加え、見えない煙・臭いが残るサードハンド・スモーク(三次喫煙)も重要視されています。

タバコを消した後に残留する化学物質が、喫煙者の呼気や、衣服・カーテン・ソファなどに付着し発生するタバコ臭を吸入することで起こります。

特に、子どもや呼吸器疾患の人はリスクが懸念されます。

※換気・消臭剤・空気清浄機でも効果はなく、有害成分が長時間残留することになります。

※喫煙後の呼気が、喫煙前の状態に戻るのに45分間かかると報告されています。(産業医科大学 大和 浩教授)



禁煙サポートを活用しましょう！

禁煙は「意志の問題」ではなく「適切な支援」を使うことで成功率が高まります。

- ①禁煙外来(条件を満たせば保険適用となる、加熱式タバコも対象)
- ②オンライン禁煙プログラム(オンライン診療、禁煙アプリなど)
- ③市町村の禁煙支援制度や禁煙教室
- ④禁煙補助薬(ニコチンパッチ・ガムなど)



天王寺消防署

令和8年3月5日、近鉄大阪上本町駅1階コンコースにおいて大相撲の玉鷲関を一日消防・警察署長にお招きし、防火防犯イベントを実施しました。

各署の取組

消防署での火災予防啓発活動についてご紹介します。



旭消防署

令和8年3月7日、旭消防署開放デーを開催しました。はしご車と綱引き、車両展示や起震車体験、防災講演会など、市民の皆さまに楽しみながら、地震や防災について知っていただける機会になりました。



住之江消防署

阿武松部屋の幕内力士「阿武剋」関に一日消防署長に就任していただき、住之江区の皆様に火災予防啓発活動を実施していただきました。



東成消防署

令和8年3月20日、ミニ消防車の放水体験やバッテリーカーの運転、起震車体験など多彩なブースがある「東成消防署開放デー2026」を開催しました！



生野消防署

令和8年2月11日、舍利寺中央公園及び生野図書館で「生野区消防ふれあいフェスタ」を開催しました。消防訓練・燃焼実験の展示、子ども用消防服の着装などの広報活動を行いました。



鶴見消防署

令和8年2月28日、消防車乗車・子ども防火衣・消火器体験・バッテリーカー・鶴見消防署オリジナル重ね捺しスタンプラリーや救助訓練見学に多くの区民の皆さまが来場されました。



平野消防署

平野区住みます芸人の翠星チークダンス様(吉本興業所属)を一日消防署長にお迎えし、救助訓練展示や体験コーナーなどを実施し、来場者の皆さまに楽しみながら、消防を身近に感じていただけた一日となりました。



様々な事案から災害活動を振り返る

東方面隊

安全管理

■はじめに

今回は住宅密集地域にある木造2階建1棟3住宅1空家で発生した火災において、小型タンク小隊が速やかに放水体制を整え、延焼危険が高い方面に対し早期に屋内進入し人命検索を実施したのち、安全管理体制を確保したうえで活動を実施した事案について紹介する。

■火災概要

覚知日時	令和7年11月某日
第1出場	6時37分
第2出場	6時37分
第2出場(警防本部判断)	6時37分
鎮圧時間	7時40分
鎮火時間	12時10分
建物構造	木造瓦葺トタン張一部モルタル塗1棟3住宅2階建
焼損程度	(建)150㎡/延280㎡ 1、2階70㎡及び小屋裏45㎡焼損。 他、類焼1棟(外壁10㎡及び内品若干焼損)
負傷者	なし
出場隊	消防車両34台

■活動内容

本火災は、延焼拡大の危険性が高い建物が集積した密集計画地域(Y地域)で発生した、木造2階建1棟3住宅1空家の住宅から出火した火災で、指令時、高所カメラで煙気が確認されている。また、消防隊の走行中、黒煙ありの即報により第2出場が指令されている。今回紹介するA小隊は、通常第1出場の指令を受け方面指定隊として出場、指定方面の消火栓に部署した。小隊長は隊員にホースカーでのホース延長を指示して、折りたたみ式はしごとび口を搬送し、先行して火元建物に向かった。火元建物が街区角に立地していることを確認した小隊長は自隊の指定方面に有効な筒先部署位置がないかを確認に走った。

火元2軒隣の住宅屋根の軒下から噴煙を確認した。このままでは小屋裏から突破される可能性が大きいと考えた小隊長はこの火元2軒隣の住宅を延焼阻止線と考え、筒先配備を実施することを選択した。

ホースカーを曳航してきた隊員に火元2軒隣の2階に進入する旨を伝え、放水態勢を整えさせたのち1階玄関より建物内へ進入。1階部分に煙気はなく室内検索実施するも無人を確認。その後、2階に至り、若干の白煙があるも、面体着装の必要はなく迅速に室内検索を実施し要救助者がいないことを確認。

併せて、延焼経路確認のため、とび口を使用して天井板を破壊した。天井板の破壊と同時に小屋裏より濃煙が噴き出し2階部分は視認困難な状態になるも、退路確保のため後方で待機していた筒先隊員が天井の開口部に速やかに放水を実施し延焼阻止に努めた。これらの活動により小屋裏部分のわずかな表面焼損のみで延焼阻止することができた。

並行して、各隊が連携して適切に筒先を配備し、早期に包囲体制を整えて延焼阻止及び主力の制圧を効果的に実施することで、早期に鎮圧に至った。

■活動効果および所見

早期に西側建物への延焼危険を考え、時機を逸することなく西側2軒隣の建物2階へのホース延長を選択し、1・2階の検索を実施後、2階天井板を破壊、延焼経路に的確に注水を行っている。本活

動におけるこの小隊の評価すべき点は、消火活動だけではなく小隊として実施している屋内進入時の活動における徹底した安全管理に関する項目である。

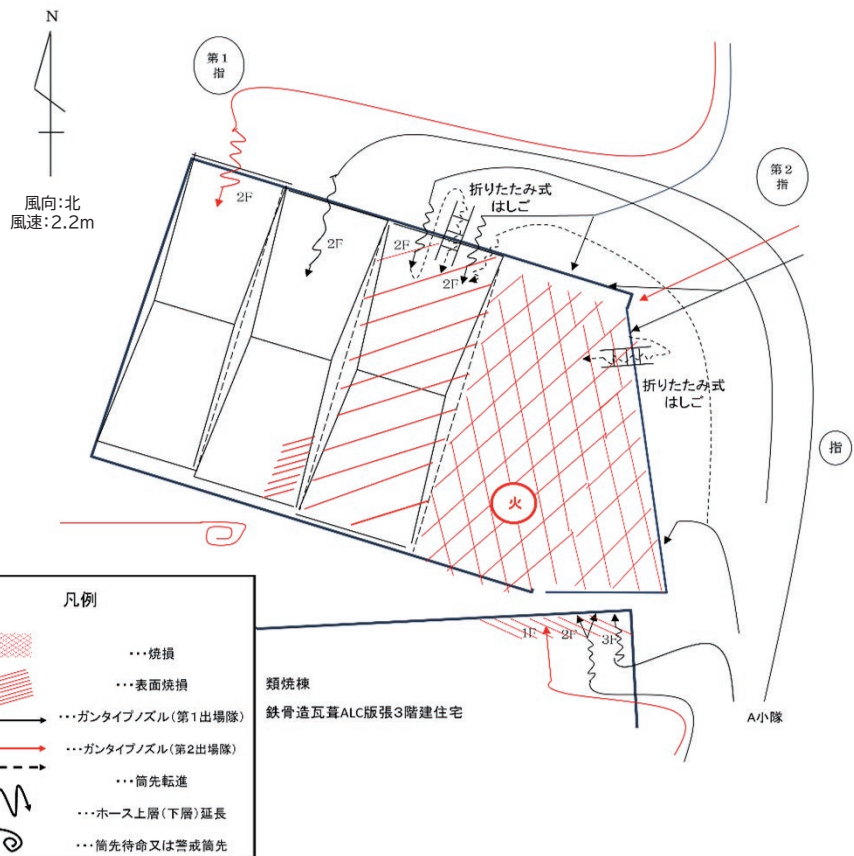
2階への進入時も玄関部分に退路確保のための人員を配置している。2階到着時、室内の状況を的確に把握し、とび口を用い効果的に天井板を破壊、濃煙が噴出してきた際も事前に準備した筒先により延焼阻止の放水を実施している。破壊を躊躇し延焼経路の確認が不十分であれば屋根裏伝いに突破され延焼が拡大していく可能性があった。破壊が必要な際には臆することなく効果的に実施することが重要である。放水により濃煙が一時的に抑えられたのちに、安全な階段部分まで筒先隊員とともに移動し、進入確認実施後、面体を着装し隊長、隊員間をリトライトでつなぐことで逃げ遅れ防止等の二次災害防止措置を実施。そののちに再度濃煙熱気の2階へ進入している。

進入管理にあつては、方面隊に対し自隊が2階に進入する旨を伝達している。第一指揮班についても該当小隊の進入について把握しており、玄関付近で警戒を実施している。

■まとめ

緊迫した状況下にも関わらず、急激な燃焼拡大があつた際も即座に対応できる体制を確立した活動を実施している。延焼の危険が大きい建物内に進入する消防隊として必要な項目をすべて実施し、安全を第一に考えた活動は評価に値するものであり、危機管理に対する認識の高さは日ごろの訓練で培われたものと思われる。

安全管理体制の構築が最優先される昨今、「当たり前のことを当たり前にやる」ことがもつとも重要であり、その安全に対する小さな積み重ねが組織全体の大きな安全へとつながるものと確信している。



火元2軒隣の状況(北から撮影)

葉山 晃汰 消防士長 にうかがいました！

- Q1** このテーマを取り上げた理由をお聞かせください。
- A1** 予防担当の中でも防火管理という限定された業務に携わる立場として、予防・警防を問わず全職員で共有できる内容にしたいと考え、このテーマを選びました。
- Q2** 論旨や表現方法で工夫した点をお聞かせください。
- A2** 窓口でのやりとりをリアルに感じてもらうため、実際に来署された防火意識の低い市民の話し方や語尾を再現するよう工夫しました。
- Q3** 窓口で防火意識が低いと感じた相手に声をかける際、特に意識している言葉選び（避ける表現／使う表現）は何ですか？
- A3** 相手が「はい・いいえ」で答えられないような質問、たとえば「普段どんな防火管理業務をしていますか？」といった質問をするようにし、防火管理の実態を引き出すようにしています。
- Q4** 「約20万件」の接点を単なる事務作業にしないために、日々実践しているルーティンや工夫を具体的に教えてください
- A4** 「何を目的として、今この業務を行っているのか？」に対する答えを常に意識しながら業務にあたっています。
- Q5** 最後に、優秀賞を受賞されて一言お願いします。
- A5** 最優秀賞には至らず悔しさは残りますが、貴重な経験をさせていただいたことを、ありがとうございます。

して流してしまっていないですか？ たとえば、届出書類をサーッと確認し、受付印を押すだけで返す。パンフレットを渡すだけで住宅防火指導を終える。消火器の使い方の教養など、決まったことだけをして消防訓練指導を終える。どれか心当たりがあるものはないですか。どんなにささいな業務でも、防火を呼びかけることのできる「一瞬のチャンス」として捉え、その一瞬に賭け、誠実に、丁寧に、まっすぐ向き合う。たとえば私は、立入検査で建物関係者の「防火意識が低いなあ」と感じた時、「有事の際に困らないよう、最低限やることを一緒に確認しておきましょう」といった、相手に寄り添った一言を添えています。このような積み重ねこそが市民の防火意識を徐々に高め、最終的に火災件数を一件でも多く減らすという結果をもたらしてくれるのではないのでしょうか。さらには、市民の消防組織への信頼をも獲得できると私は信じています。

一つ一つの「一瞬」に誠実に向き合って、私たちが防火の力を広げていきましょう。

第73回 消防職員意見発表会

令和8年2月17日、西消防署講堂において第73回消防職員意見発表会が開催されました。ここでは、優秀賞を受賞した、葉山 晃汰 消防士長（中央消防署 予防担当）の発表内容をご紹介します。

優秀賞



“一瞬”に賭ける防火の使命

中央消防署 予防担当 消防士長
葉山 晃汰



「火災を予防する上で最も重要で、欠かすことのできない存在は、防火管理者である」と私は考えます。

なぜなら防火管理者は、日頃から消防設備や避難通路を維持管理し、自らが先立って消防訓練を実施し、時には従業員に対し防火上必要な教育をするなど、私たち消防職員には見えないところで建物を火災から守っているからです。

現在私は、防火管理に関する「相談」や「届出対応」を担当しており、多くの防火管理者と接します。その中で「防火意識が低いなあ」と感じる場面に何度も直面してきました。「どうやって市民の防火意識を高めようか」——これこそが私にとって、火災予防業務における最大の課題です。

ある日、若い男性が窓口に来てこう言いました。「うちの店長に防火管理講習を受けてこいって言われて、講習は受けてきたんですけど、これから何をすればいいですかね」。正直、「店長に言われたから来ただけやろなあ」という印象で、防火への主体的な意識や責任感を感じられませんでした。

そこで私はこう問いかけました。「火災予防の最前線にいるのって実は消防ではなく防火管理者なんですよ。消防の手が届かない部分を維持管理し、建物を火災から守る。この役割って人の生死を左右するほど重要なんです。建物を守るため、何よりあなた自身を守るためにも、防火に協力してもらえませんか。」

すると彼はハツとした表情で、「防火管理者ってめっちゃ大事ですね、ちゃんとやることやりますわ」と前向きな姿勢を見せてくれました。

その姿を見て、私は「防火を伝えることのできる一瞬のチャンスを逃さず、市民一人ひとりに寄り添うことの大切さ」を実感しました。

「約20万件」これが何の数字かわかりますか？ これは1年間に、大阪市全消防職員が、立入検査や窓口対応などで市民と接する件数です。つまり、市民の防火意識を変えられるチャンスの回数です。

みなさんは、この「約20万件」という一瞬のチャンスを、単なる毎日の事務作業と

センター教育・研修を徹底解剖

Just Do It!

第19回 消防研修MAPの活用から始まるキャリアアップ

高度専門教育訓練センター

高度専門教育訓練センターが行っている研修を深掘してきた「Just Do It!」。
 今月は、訓練センターが今年度を実施する研修の数々をご紹介します。



消防研修MAP(庁内ポータル掲載場所)

消防局 ➡ 高度専門教育訓練センター ➡ 03 研修
 ➡ 02 人材育成関係 ➡ 01 センター教育・本部研修計画

当局的研修が一望できる
 消防研修MAP

大阪府消防局の研修について年間スケジュールを紹介しているのが、消防研修MAP(センター教育・本部研修計画)です。訓練センターが実施するセンター教育や大阪府消防局各課が担当する本部研修に加え、消防大学校及び大阪府立消防学校などで実施する委託教育も掲載しており、庁内ポータルで閲覧することができます。

センター教育の研修体系は、「高度専門教育」「救命士教育」「特別教育」「昇任時教育」「新任教育」「委託教育」の6つの柱からなります。

■高度専門教育

消防職員に対して行われる、特定分野に特化した高度で専門的な教育訓練が、「高度専門教育」です。今年度も例年通り、「指揮研修」「上級救助研修」「火災調査研修」「上級予防研修」「特殊災害研修」「消火技術研修」の6つの研修を実施します。

本研修は、他都市消防本部の受講生も参加することから、普段出会うことのない方々と交流し、意見・情報交換できることも魅力になっています。

■救命士教育

この研修は、救急救命士免許の取得を目的とする「救命士養成課程」と、指導救命士の養成に係る「指導救命士養成課程」の二本立てになっています。専門的知識を有する外部講師による、難易度の高い講義や認定試験も含まれますが、所属や消防本部を異にする職員同士が、同じ目標に向かって切磋琢磨する、活気ある研修となっています。

センター教育の概要

■特別教育

採用後、一定期間を経た職員を対象とする本研修では、それぞれの勤務年数や年代に応じて、各自が職場でさらに活躍できるよう、対人関係能力の開発・向上を目的としたカリキュラムを取り入れています。さらに、今年度から「40歳研修」「50歳研修」を新設するとともに、「3年目研修」「6年目研修」といった年次教育や、「研修担当主任研修」「救急研修担当リーダー研修」といった、研修実施担当者向けの研修なども実施します。

■昇任時教育

昇任時教育は、各級幹部及び昇任候補者名簿に登録された者に対して行う研修となっており、消防士長から消防司令長までの各階級で実施します。カリキュラムは、実務に直結する内容を中心に構成していますが、部下をやる気にさせる会話術や業務に関する問題・課題の解決力向上といった講義や演習もあり、受講者の評判も良い研修となっています。

■新任教育

新たに採用された消防職員に対して、次の3つの教育訓練を実施しています。

■新任補充教育

消防学校初任教育中に、消防署で2当務の実務

【令和8年度センター教育計画】									
2	上級救助研修								
研修種別	高度専門教育			担当	高度専門教育訓練センター				
研修目的	救助業務に関する高度な知識及び技術を修得し、救助業務の各所属における指導的立場の人材を育成する。								
到達目標	高度救助技術を修得し、実践で活用できるとともに高度な指導ができる。								
対象者	救助隊に選任されている次のいずれかの者 ① 消防司令の階級にある者 ② 消防司令職でかつ救助経験年数が2年以上の者			実施場所	高度専門教育訓練センター				
実施時期	令和8年度10月6日(火)～10日(金)※			参加人数	有	受講前研修	有	受講後研修	有
種別	内容(カリキュラム)				講師	時間			
-	所教あいさつ・修了式				高度専門教育訓練センター所長	-			
講義	救助総論				警務課 [救助-6部特別高度救助隊]	1			
講義	現場指揮				警務課 [救助-6部特別高度救助隊]	1			
講義	安全管理				警務課 [救助-6部特別高度救助隊]	2			
講義	コーチングスキル				外部講師	2			
訓練	ブリーフィング/デブリーフィング				高度専門教育訓練センター	3			
効果確認方法									
【受講後研修】 研修終了者が研修を振り返って、研修で得たこと感じたこと、今後への展望をレポートにしてセンター所長へ報告する。									
評価項目(凡例)					「Web(全)」・・・ウェブ配信型 「Web(局)」・・・デジタル配信型 「Web(区)」・・・オンプレミス型 「Web(SD)」・・・その他の方法				

図 消防研修MAPに掲載されている「個票」

ぜひ、活用してほしい！
 消防研修MAPの「個票」

消防研修MAPには、1研修を1ページで紹介している「個票」が掲載されています(図)。

個票には、研修の対象者や実施時期に加え、研修目的、到達目標、カリキュラムなどを整理しており、研修の全体像が一目で把握できるようになっています。

消防研修MAPには、個票のほか、各研修を種別や受講者層で整理した体系図、研修実施日を一覧化した予定表も掲載されています。大阪府内消防本部の職員も受講する研修もあり、年度内の研修を多角的に確認できる構成になっています。所属の人材育成や受講の際の事前準備などに、ぜひ活用ください。